



# 第6回U26(ユージロー) 全国集会を開催

2月23～25日まで京都府宇治市にあるアクトバル宇治で第6回U26全国集会が開催されました。U26とは「知る、つながる、教会の絆」をスローガンに活動する全国規模の青年グループです。このU26を通して、個々の教会や教区を越えたくさんの仲間を知り、つながりを深め、そして神様を中心に教会の絆を深めることを目指しています。

今大会のテーマは「響(ひびき)」でした。初日にはテーマについての分かち合いがありました。響きという音を連想させたり、影響や反響などの意味もあり、自分達の考えや経験をもとに話をしました。教会で聞く聖歌が好きという人や、キャンプで仲間に影響を受けたなど、自分も教会に通っている中で共感できることがたくさんありました。

2日目の分かち合いでは教会とのつながりやそのきっかけという話から様々な話になりました。私が印象に残っているのは、神様ってどこにいるのだろうという話でした。この話では2つの意見がありました。一人ひとりの心の中

にいて正しい道を示してくれるという意見と、とにかく遠く高いところにいて私たちを導いてくれるという意見でした。どちらが正しくてどちらが間違っているということはないと思います。みんなが同じ聖書を読んでいるのにそれぞれ感じ方や捉え方が違うんだなと新たな気づきを与えられた時間でした。



集会では、分かち合いの他に聖書研究や教区の活動紹介、レクリエーションなどもありとても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。その中で1つ嬉しかったことがありました。今回が初参加の青年がいました。ただ過去に会ったことのある青年だと思っ話をしてみると、以前神戸教区の第50回中高生大会に東北

教区から参加をしてくれた青年でした。神戸教区のキャンパスで会って次に教区を超えた集まりで再会できたこと、私はいここで教会や神様とつながることにより素敵なつながりが生まれるんだと改めて実感しました。私自身も他教区の青年と関わり話をするのでたくさん刺激をもらっています。もつと教区内の青年にもこのような集会に参加してもらいたいし、教会や神様とのつながりについて考える時間があればいいなと思います。

(小林真綾・  
神戸聖ミカエル教会信徒)

## 教会巡礼 松山聖アンデレ教会

松山聖アンデレ教会の礎を築いたのは、英国聖公会SPGのウイリアム・アーサー・リチャーズ宣教師である。同師は、信徒の自宅で週日の集会や毎主日の聖餐式を守り、平均出席者は10名を数えた。

1933年には教会の建築が進められ、同年12月16日に二階建ての牧師館を持つ聖堂が完成し、バジル主教により

聖別された。この建物は、以降70年間にわたって、松山の地で宣教牧会の業に用いられることとなった。

1995年に、藤井尚人司祭のもとで、「平成の大改修・人の家より神の家」を合言葉に、大規模なリニューアルを敢行した。ところが、2001年3月24日に起きた芸予地震によって、松山市は震度5強を記録し、教会の建物、特に聖堂は大きなダメージを受けたが同年11月までに聖堂の修復を終えて、会館・牧師館の建築に着手し、2003年7月5日に瀬山会管理牧師のもと、教会の会館・牧師館は落成の日を迎えた。そして日頃の地道な保全活動によって、松山の街に残る唯一の煉瓦造りの聖堂は、今も地域社会に親しまれている。

柳本博人司祭が着任した2013年に、当教会は、『松山の地に在って、Anglican Churchに属する聖公会として、神様の栄光を現すために、開き・集い・招く教会であることを目指す』というビジョンを策定した。現在、その実現を目指して、『主日、聖日等、公会暦に従い、また、その他のあらゆる機会に礼拝を献げる』、『教会メンバー、地域社会の方々、その他、教会と触れ

合うチャンスを持たれた方々と共に、学びの時、交わりの時を、恒常的に持ち続ける』、『教会に集うことは、自分が、神の栄光を現すことを目指す教会の掛け替えのないスタッフの一人として、神様から選ばれた《恵》であることを覚えて、礼拝その他の集いに出席する』、『自分が教会に招かれた時の記憶と喜びを思い起こし、今度は、自分が、それぞれの時に、あらゆるチャネルを駆使して人を招く』、『教会が主日のみの場である』という意識の改革を図り、信仰と日常の一致を目指す』の各アクションプランを進めている。



# オーガスタのまなざし



主教 小林 尚明

## 宣教

一昨年の9月、神戸教区は宣教140年記念行事を行いました。その時発表された各教会のビジョン、アクションプランは、その後、どうなっていますか。全体的に息切れ状態かもしれません。何が足りないのでしょうか。

日本聖公会の首座主教植松誠北海道教区主教が、昨年の教区会(11月23日)でお話しされた主教告辞が北海道教区報に掲載されました(興味のある方は各教会の牧師まで問い合わせてください)。PDF版で届けてあります。

北海道教区は六つの優先着手課題を決めて取り組んでこられたようですが、効果的な宣教の結果を生み出していない状態だそうで、「その問題を突き詰めていくと、いったい私たちはどのような信仰者であるのか」というところまで問われていきます。私たちにとって信仰とは、福音とは、教会

とは、礼拝とは、献金とは何なのか。はたして私は信仰を生きているという喜びや感謝の中にいるのか。そのような自分の在り方を脇において宣教を考えても、それはあまり意味のないことだと思えます。宣教とは私たちの生き方そのもので「す」と語られ、また「宣教とは、第一義的には、自分の信仰の証しです」と語られていました。この植松主教様の告辞を読ませていただいて、同じことが私たちの教区にも言えるのではないか、と思つた次第です。

## 信仰の証し

徳島県阿南市にある富岡キリスト教会にいた時の事です。ある中年のご婦人が「洗礼を受けたい」と来られました。

「何故ですか」とお尋ねしますと、「私たち夫婦が大変な状況になった時、義母に相談したことがありました。すると義母は、『大丈夫よ、私が神様にお祈りしてあげるから、大丈夫』と言ってくれました。その義母の言葉を信じて頑張ってきました。何とか状況もよくなつて、あの義母の神様に対する信頼と信仰を自分も欲しいと思つたのです。」と教えてくださり、洗礼を受けられました。これが信仰の証しです。

(神戸教区主教)

## 教会建築シリーズ

### 徳山聖マリア教会編

教区の皆様には当教会の建築事業のため、お祈りとご協力を頂きありがとうございます。一昨年11月の竣工から2年目の歩みを始めております。また連続して収獲感謝献金をおささげ頂き、心より御礼申し上げます。今回はシリーズ徳山版の最終回として、感謝を込めて教会の今をお伝えします。



旧会館から継続した活動の一つに主日礼拝後の愛餐会(昼食会)があります。設計の目玉であるオープン

キッチンで「作る・配る・食べる・片付ける」を、日曜学校生徒・保護者、もちろん信徒を含め全員参加で行っています。



また平日には料理教室、韓国語教室、ハンドメイド教室、カフェが開かれています。

これらの活動に加え、1月から「マリアマルシェ」と題して幼稚園・日曜学校保護者、地域の手芸サークルが集い、ブースを作つて活動発表や実演、手芸品の販売などを行っております。

直接、宣教にはならないと思われがちな活動ですが、まず地域の方々に新しい会館を知っていただく事を目指し、一人でも足を運んでいただければ、誰かにつな

がるのではないかと祈っております。

会館設計のもう一つの目玉は、ガスコージェネレーションシステムです。会館での活動が活発になる事は大きな喜びですが、人が集まれば光熱費が気にかかります。これは都市ガスを小型のエンジンで発電し、その熱でお湯を沸かすという地球にやさしい一石二鳥のシステムです。全館LED照明の採用と合わせ、建築前の光熱費から約三分の一のカットを実現して教会運営に貢献しています。

最後になりましたが改めて、教区内外・聖公会の皆様のお力添えに感謝いたします。この感謝を宣教・伝道に結び付けてゆきたいと思えます。また機会があれば、ぜひ「おいでませ！」徳山聖マリア教会へ。(建築実行委員長・田口安雄)

## 神戸教区 ホームページ

神戸教区内の教会の情報は、ホームページからご覧になれます。また大聖堂の礼拝の生中継もご覧いただけます。

<http://www.nskk-kobe.org/>

鳩だより 《敬称略》

祝洗礼

2月11日(日) エリザベス 曾山 佑利香  
神戸聖ミカエル教会

祝堅信

2月11日(日) エリザベス 曾山 佑利香  
神戸聖ミカエル教会

ご逝去

2月19日(月) マリヤ 三宅 初枝  
倉敷聖クリストファー教会

3月2日(金) ヨハネ 北中 愛海  
神戸聖ミカエル教会

教籍移動

2月11日(日) グレース 中村 陽子  
京都教区聖三一教会より  
神戸聖ミカエル教会へ



広瀬基督教会 建築献金「継続」のお願い

昨年3月に再建された広瀬基督教会の礼拝堂の建築献金を教区の皆さまにお願いいたしました。多くの皆様から献金を送りいただきましたありがとうございます。期限の12月末までにお寄せいただいた結果は以下の如くです。

目標.. 423万円  
結果.. 177万4,162円

残念ながら目標に届かず、資金が不足いたしましたので、常置委員会で協議した結果、募金期間を6か月延長し、再度皆さまのご協力をお願いする次第です。

日本聖公会神戸教区 広瀬基督教会 建築献金

振替口座(ゆうちょ銀行) 01100-9-17568 (2018年6月末まで)

5月の教区関係教役者 逝去記念聖餐式

日時 2018年5月17日(木) 午前10:30  
場所 神戸聖ミカエル大聖堂  
司式 主教 小林 尚明  
説教 司祭 瀬山 公一

\* 5月の記念逝去教役者

- 2日 司祭 覚前 政蔵
- 5日 宣教師 ヴァイオレット ヘッド
- 6日 司祭 吉本要太郎
- 10日 司祭 フランク ウェストン
- 14日 伝道師 マリヤ 松山 初子
- 16日 司祭 ポウロ 韓 浩
- 19日 主教 パウロ 八代 欽一
- 22日 司祭 ペテロ 長澤 四郎
- 24日 司祭 ヨハネ 村上 豊吉
- 24日 司祭 パウロ 大塚 磐
- 26日 司祭 末吉 萬吉
- 27日 司祭 バルナバ 阪村 達雄
- 28日 司祭 バルナバ 與賀田千秋
- 29日 司祭 アーネスト ハッチントン
- 30日 宣教師 メイブル バーグス

霊操研修のご案内

目的: 聖職の召命を見つめ直し、主イエスからの慰めと励まし、癒しを与えられるため

講師: イエズス会 清水弘神父

日程: 2018年9月25日(火) ~10月3日(水)

場所: イエズス会聖ヨハネ修道院 (長束黙想の家) 広島市安佐南区長東西2-1-36

費用: 教役者 無料 (交通費も教区で負担します) 信徒 46,400円(5,800円×8日)

※「霊操」とは…

イエズス会の創始者イグナチオ・ロヨラが考案した黙想方法。創造、死、イエスの生涯、十字架と復活などのテーマに合わせ1ヶ月で黙想しますが、今回は1週間で行います。聖職・信徒としての自分を神様と共にみつめ直す機会として、是非ご参加ください。